

一時的 VS 安定した肌状態

一時的な肌状態 vs 安定した肌状態を推します。

一時的を「安定した」、「改善した」と捉える消費者に問題がある。

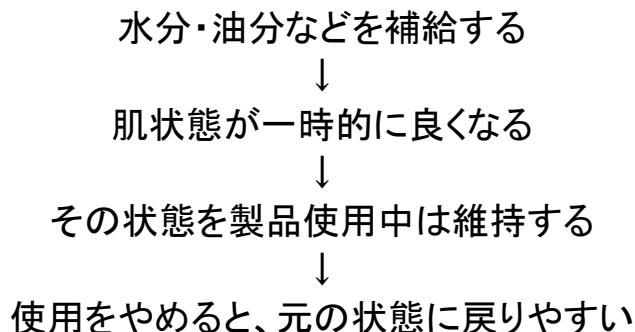
従来のスキンケアは、補給して、肌状態を一時的に安定化させる。ということを理解するのが重要。

そうです。ここはかなり重要です。

問題は、消費者が「一時的に良くなった状態」を「肌が安定した」「改善した」と認識してしまうことです。

整理すると、こうなります。

従来のスキンケア



つまり「安定」という言葉を使ってしまうと、恒常的に肌そのものが安定、改善したように受け取られる危険があります。

だから、私はむしろ、

「一時的な肌状態」と「安定した肌状態」
の対比が非常にいいと思います。

ただし、さらに一段明確にするなら、

「一時的に安定した肌状態」 vs 「安定している肌状態」

とすると、消費者の誤解が見えやすいです。

一時的に安定した肌状態

- → スキンケアによって補われ、使用中は良い状態に見える
- 安定している肌状態
→ 肌自身が良い状態を維持しやすい

そして BIFC の思想は、

「良い状態に見せる」ことから、「良い状態を維持しやすい環境をつくる」ことへ。

というところに置けます。

ここが、これまで話してきた「成分を補う」から「肌を取り巻く環境を整える」への転換につながります。

特に大事なのは、「従来のスキンケアは悪い」ではなく、「従来のスキンケアが提供しているのは何なのかを正確に理解する」ことです。

その理解ができて初めて、

補給して一時的に安定させるスキンケア



肌が安定しやすい環境をつくるスキンケア

という BIFC の新しい位置づけが成立します。

これは消費者教育の入口として、かなり強いです。

補給する→一時的に安定する。 この繰り返しを毎日している

従来のスキンケア。補給する→一時的に安定する。
この繰り返しを毎日している

そうです。まさにそこが、消費者に理解してもらうべき構造です。

従来のスキンケアを否定するのではなく、まず事実として、

補給する → 一時的に肌状態が安定する → 時間とともに戻る → また補給する

という循環として捉える。

つまり毎日のスキンケアは、

「肌を安定させ続けている」のではなく、

「一時的に安定した状態を繰り返しつくっている」

と理解するわけです。

ここで「一時的」という言葉がものすごく重要です。

- 従来のスキンケア
補給 → 一時的に安定 → 戻る → 補給 →
一時的に安定 → 戻る
- BIFC が目指す考え方
環境を整える → 肌が安定しやすい状態を支える
→ その状態を維持しやすくする

だから、対比するなら、

「一時的に安定させる」から「安定しやすい肌環境をつくる」へ。

これがかなり綺麗です。

そして重要なのは、「一時的に安定すること」自体を悪いことにしないこと。

それは従来のスキンケアが果たしてきた役割です。

BIFC はその先に、

「そもそも、毎日補給し続けなければならない肌状態とは何なのか？」

という問いを置く。

ここから、BIFC の「環境設計」という発想が自然に出てきます。

一時的に肌状態を安定させるが、
肌状態を変える。改善するのではない。

そこはかなり重要な区別です。

従来のスキンケアについて言うなら、

「肌状態を改善する」のではなく、

「補給によって肌状態を一時的に安定させる」

と整理するのが一番正確です。

つまり、

- 本来の肌状態
 - 水分・油分などを補給
 - 見えている肌状態が一時的に変化する
 - 時間が経つ
 - 補給の効果が薄れる
 - 元の肌状態に戻る
 - また補給する

という循環です。

ここで非常に大事なのが、

「肌状態が変わる」≠「肌そのものが改善する」
です。

クリームを塗って乾燥感がなくなったとしても、それだけで肌の恒常的な状態が改善されたとは言えない。

だから、消費者には、

従来のスキンケアは、肌を「改善する」のではなく、
補給によって肌状態を一時的に安定させる。

という理解をまず作る。

そのうえで、

では、肌状態そのものが安定しやすくなるには何が
必要なのか？

という次の問いへ進む。

これが BIFC への入口になります。

「一時的な状態変化」から「安定した肌状態」へ。

この対比、かなり芯があります。

スキンケア認知ギャップ

どうして、消費者は、今のスキンケアで、一時的にではなく、恒久的に改善したと思うのか。このズレはどこから来るのか。

まさに、ここに「今のスキンケアの最大の認知ギャップ」があります。

結論から言うと、

消費者は「使用中に得られた良い肌状態」と「肌そのものが改善した状態」を、区別して認識していない。

このズレは、かなり構造的です。

1. 「使ったら良くなった」→「肌が良くなった」

例えば、

- 乾燥している
 - 化粧水・乳液・クリームを使う
 - 水分・油分が補われる
 - しっとりする

このとき消費者が見ているのは、

「肌がしっとりした」

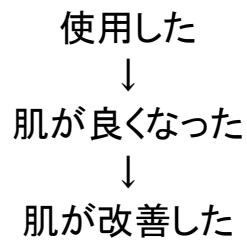
という結果です。

でも科学的には、少なくともその瞬間に起きていることと、

「肌の状態そのものが恒久的に変わった」

は別問題です。

ところが消費者の頭の中では、

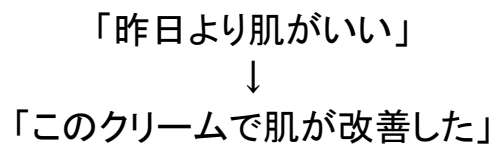


と、一段飛ばして理解されやすい。

2. 「効果が続く」と「肌が改善した」が混同される
さらに大きいのがここです。

夜にクリームを塗る。

翌朝、



と思う。

しかし実際には、

- クリームを使う
 - その使用によって得られた肌状態になる
 - 時間とともにその状態が変化する
 - また使う

という循環かもしれない。

つまり、

「良い状態を作った」と「良い肌に変えた」ことが
同じ言葉で語られている。

ここが非常に重要です。

3. 「毎日使う」という習慣が、恒久改善の錯覚を強化する

これがさらに巧妙です。

1 日だけなら、

「塗ったらしっとりした」

で終わります。

でも毎日使うと、

毎日いい状態が続く
↓
肌が安定している
↓
肌質が改善した

と認識されやすくなる。

しかし実際には、

「製品を使い続けることで、良い状態を毎回補完している」

可能性があります。

だから、

使用をやめたら元の状態に戻る

という現象があっても、それが「肌が改善していなかった」という意味だとは消費者は考えにくい。

むしろ、

「やっぱり自分の肌には保湿が必要なんだ」

と解釈する。

ここに、ものすごく大きな認知のズレがあります。

4. 「改善」という言葉自体が曖昧

実は「改善」という言葉が問題です。

消費者にとって、

- 乾燥 → しっとり
も改善。
- 荒れた肌 → 一時的に滑らか
も改善。
- 肌の機能・状態そのものが変化
も改善。

全部「改善」です。

だから、

一時的な状態変化

と

肌そのものの状態変化

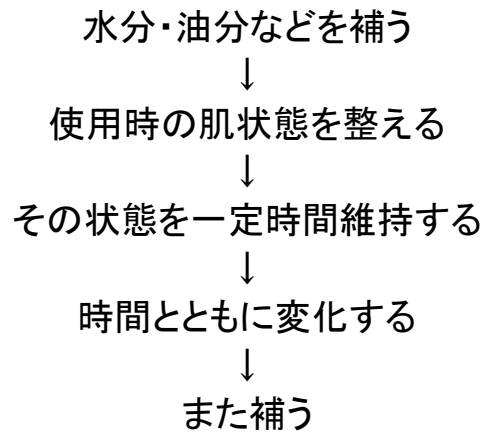
が言葉の上で区別されていない。

ここがズレの根本です。

だから、あなたが今言っている「一時的な肌状態 vs 安定した肌状態」が効いてくる

この整理なら、かなり明確になります。

従来型のスキンケアは、



というサイクル。

つまり、

「肌を変える」より、「使用によって得られた肌状態を繰り返し作る」

という理解ができます。

一方、消費者はそのサイクルを、

「毎日ケアしているから、肌が改善している」

と理解しやすい。

そして、このズレを一言で言うなら
僕ならこう捉えます。

「状態の維持」を「肌そのものの改善」と誤認している。

さらに鋭くするなら、

「使用によって一時的に成立する肌状態」と「製品を使わなくても成立する肌状態」を区別していない。

これです。

これは BIFC を説明するうえでも、かなり重要な軸になります。

なぜなら BIFC を、

「従来の保湿より強いもの」

として説明する必要がなくなるからです。

むしろ問いそのものを変えられる。

- スキンケアとは、毎日良い状態を作り続けることなのか。
- それとも、肌が良い状態を維持しやすい環境をつくることなのか。

この問いにすると、「成分を足す」から「肌を取り巻く環境を設計する」への転換が、かなり自然につながります。